

学力調査等の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査において、都平均と比べ、正答率が国語、算数ともに10%下回っている。 ・国語では、話すこと・聞くこと、及び読むことは、全国平均と上回ったり、同等であるが、書くことや言葉の特徴や使い方に関する事項は低い傾向がみられる。算数では、都平均と比べ同等の正答率の問題もみられるが、全体的に低い傾向にある。 	

見えてきた課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・国語では、言葉の特徴や使い方において、課題がみられた。新出漢字については、定期的に小テストを行い、定着を図っているが、今後は、日常的に文章を書く活動を設定し、習得した漢字を活用できるように指導を工夫していく。 ・算数では、図形の領域において、課題がみられた。面積を求める公式の習得を図っていく。 	

授業をデザインする8つの取組について	
認め合う・学び合う集団の形成	3~4人のグループ編成をし、協働する時間を積極的に取り入れ、児童が互いに認め合い、粘り強く学習に向かえるよう授業を組み立てていく。また、学年・校種を越えた学び合いを行っていく。
発問の工夫	児童の思考にはたらきかけ、協働しながら追究することのできる1時間を貫くことのできる発問、質のよい発問の工夫を行えるよう教材研究に努める。
ICT機器の活用	Chromebookやプロジェクターを活用し、教材を共有したり協働学習に取り組みせたりする。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○言語を視覚的に捉えるため、動作を加えたり、現物を見せたりする。 ○漢字を定着させ、漢字を用いた書く習慣を身に付けさせるために、朝学習や学習タイムの時間を活用し、漢字の学習を繰り返す行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題を読み取る力の伸長を図るため、説明文や物語文など様々なお話に触れる中で、自ら文章を読むことに慣れさせていく。 ○ひらがなやカタカナ、漢字を正しく書けない児童がいるため、朝学習や学習タイムの時間、宿題を通して繰り返し学習し、習得させるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章を読み取る力の伸長を図るため、筋道を立てて文章を読み取れるよう、物語文や説明文を通して文章に慣れ親しませる。 ○書く力が弱い児童、様々な活動(振り返り・日記・作文など)を通して、自分の考えや気持ちを書く経験を積ませていく。 ○漢字の習得にむけて、朝学習や授業内で正しく書けるよう繰り返し指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○場に応じた声の大きさと話すことができるよう、音読を行ったり、ディベートなどの活動を通し、自分の意見をしっかりともちたせたりし、友達に伝えられるよう指導する。 ○漢字が身に付くよう小テストを繰り返し行うとともに、日常の文章の中でも漢字を使うよう作文指導をしたり、繰り返し小テストなどを行うようにする。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ○つかむ→たてる→調べる→まとめるという社会科の学習の流れを身に付けさせ、単元を貫く学習問題をつかませる。 ○資料集や地図や映像資料などを数多く活用して、調べる能力を身に付けさせるようにする。 	(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) <ul style="list-style-type: none"> ○生活科の学習で学校探検をし、実際に歩いた場所と校内地図が一致するように指導する。 ○生活科の「えがおのひみつたんけんたい」の単元で、施設や場所に目を向ける視点を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3年生になり初めて社会科の学習をするため、地図や表などの資料の見方の視点を教えるとともに、資料活用の問題に慣れさせていく。 ○実際に行って調べたり、話を聞いたりとすることで、学習課題を自分事としてとらえ、理解を深める工夫を行う学習をしていく。また、Chromebookを活用して情報を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料集や地図帳、Chromebookを効果的に使い、新聞づくりなどを通して、調べたものを活用する力を養う。 ○複数の資料を比較や分類したり統合したりする思考力や判断力が弱い児童、資料集を活用しながら資料の読み取りをしていく。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> ○前学年までの復習をしながら、既習事項をもとに自力解決に取り組み、協働学習を取り入れて、解決の方法を導き出していけるようにする。 ○具体物を提示して視覚的にも捉えられるようにする。 ○授業において、navimaを取り入れ、補充の学習などに活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項の習得を図るため、既習の内容の振り返りを行う。 ○たし算・ひき算・かけ算の学習では、ブロック等の具体物を使い、立式の根拠としたり、計算の確認をしたり視覚的に示せるようにする。 ○なぜ、どうしてという「問い」を大切に、話し合いながら問題解決に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関連する既習事項を振り返り、新しい計算問題に取り組む際に、必要な既習事項を児童に問いながら学習する。 ○問題文に下線を引いたり、図で表したりして、立式の根拠とする。 ○自力解決の後、話し合いや、ICT機器を使って考えを共有する場面を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関連する既習事項を振り返り、新しい計算問題に取り組む際に、必要な既習事項を児童に問い、確認してから学習する。 ○navimaを活用し、学習内容の定着を図る。 ○自力解決の後、話し合いや、協働学習をしたり、ICT機器を使ったりして考えを共有する場面を作る。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の課題意識を高めるために、問題作りや実験前の予想をたてることに重点を置く。 ○結果をノートやプリントに記録し、結果から結論を導き出す。学びの流れを分かりやすく提示して、自己解決能力を身に付けさせる。 ○実験や観察の時間や機会をできるだけ多く設定し、学習意欲を高める。 	(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) <ul style="list-style-type: none"> ○生活科の「きれいにさいてね わたしのはな」「めざせ 野さい作り名人」の単元では、すすんで植物に関わろうとする意欲を育てる。 ○生活科の単元「きせつと なかよし」では春夏秋冬の季節の変化を、時間の経過を意識してとらえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験や観察の時間の中で、Chromebookを使って、実験や観察の過程を撮影する。ノートやChromebookの記録を見て、結果から結論を導き出す。 ○問題作りや実験前の予想の場面では、なぜやどうしてなどの問いを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験や観察の中で、Chromebookを使って、実験や観察の過程を撮影する。 ○ノートやChromebookの記録を見て、結果から結論を導き出す。 ○実験や観察の際に、予想、活動、考察の流れを徹底し、根拠をもって、自分の意見や考えを構築することができるよう指導する。

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<ul style="list-style-type: none"> ○体験活動の場を多く取り入れ、定着を図る。 ○家庭への協力を呼びかけ、学校で学習したことを振り返り、自分への気づきが深められるようにする。 ○栽培・飼育活動を通し、動植物の命の大切さを飼育活動・栽培活動を通して育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「きれいにさいてね わたしのはな」「めざせ 野さい作り名人」の単元では、すすんで植物に関わろうとする意欲を育てる。 ○「きせつと なかよし」では春夏秋冬の季節の変化を、時間の経過を意識してとらえるようにする。 		
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な技能が発声・器楽で身に付くように、意欲を高めることのできる指導をしたり、視覚的に分かりやすい資料を掲示したりする。 ○鑑賞においては、聴いた音を体で表現するなどして、目に見えるように具体化し、児童にとって分かりやすいように、また評価しやすいうようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○低学年は明るく元気に歌うことに偏りがちなので、しっとりした歌も取り上げ、中学年から始まる二部合唱に向けて歌唱力を高める。自分の声、音だけでなく周りの音や演奏も聴けるような指導をする。 ○鑑賞においては、その時間に学習する題材だけでなく関連する楽曲の映像なども取り入れながら児童の興味を引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童同士で教え合う、合わせてみることでみんなで上達していく、自信をもって演奏する気持ちを育てる。 ○4年生から二部合唱の学習が始まる。ソプラノ、アルトそれぞれのパートをしっかり覚えるところからスタートし、段々と相手のパートの声を聴きながら綺麗なハーモニーを作れるよう時間をかけて行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽譜に書かれたとおりに演奏するだけでなく、楽曲にこめられた思いや意図を感じながら演奏できるように、児童同士でどのように演奏したいか、強弱をどこでどうつけたいかの意見を出し合うなどのグループ学習を取り入れる。
図工科	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の表現活動に自信を持ち、友だちの表現活動から更に発想を広げていけるように、よいところを見合う、伝え合う活動を増やす。 ○大型が画面などを使用し、児童に製作の流れ等を実演的に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各題材が完成する度に児童が友だちの作品を鑑賞する時間を取り、作品の楽しさや面白さを感じ取らせていく。 ○身近な材料や用具に慣れるような題材や手や体の感覚を働かせられるような題材を設定する。 ○書画カメラ等を使い、作業などを実際に児童に見せて指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童同士が製作中に友だちの作品を見る機会を意識的につくり、児童が友だちの作品の良さを自分の作品に取り入れていくような環境をつくる。 ○児童が初めて使う材料や用具に親しめるよう題材の設定を工夫する。 ○道具の導入の際には、動画を繰り返し見せるなどして使い方を児童に理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○完成途中の作品を掲示するなど、児童同士が自然に作品の相互干渉を行うことができるような環境をつくる。 ○児童が自分の思いを形にするためには、どのような材料や用具、方法を使えばよいか考え、選ぶことのできる題材を設定する。 ○題材の導入では、ICT機器を使い、児童の興味・関心を引きだすようにする。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ○具体物を用いた実習の機会を多くして学習意欲を高めるとともに、生活に結び付く技能が身に付くように授業展開を工夫する。 ○自分の経験を思い起こしそれと学習内容を結び付けることで、日常生活に生かそうとする意欲と態度、実践力を高めるようにする。 			<ul style="list-style-type: none"> ○細かい作業など書画カメラを活用し、見やすいよう指導の工夫をしたり、調理の学習など出来ることを工夫しながら、子供たちの身近に感じられるよう指導していく。 ○一人一台ミシンが使えるように中学校と連携し、全員がミシンを使い、これからの生活に生かせるよう工夫する。
体育科	<ul style="list-style-type: none"> ○整列、体育座り、準備体操など、9年間かわる基本的な動きの確認を行い、話を聞こうとする素地を育む。 ○投力が低いため、中学校と同じく「体をひねる」動きを取り入れた活動を取り入れる。 ○器械運動はクロムブックを活用し技の改善や完成度を高めるためのコンテンツとして活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○整列、体育座り、準備体操など基本の動きを身に付ける。 ○ボール、マット、跳び箱などの用具を使い、基本の運動を身につけ、楽しく運動に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な運動に取り組む場を設定し、各種の運動の基本的な動きや技能を身に付ける。 ○一人一人が、自分に合った課題をもち、その課題の解決に向けて学習を展開することで、考える力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器などを準備し、撮影することで自分の動きに目を向けさせ、課題を見つけるようにする。 ○資料を拡大し、気付いたポイントなどを書き込み、全体で共有できるようにする。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○繰り返しチャンツやゲームなどを行う中で、英語を言うことを楽しみ、英語に慣れ親しませる。 ○英語教室の掲示物やデジタル教材で英単語を見る機会を意図的に増やし、アルファベットや英単語を書くことができるようにする。 			<ul style="list-style-type: none"> ○モジュールと授業の中で定期的にチャンツやゲームを通して、英語を話すことを楽しむことができるようにする。 ○ピクチャーカードやデジタル教材などを見る機会を増やす。 ○英単語や短い文章を書くことができるようにする。

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	○公共の場での行動や地域の方とのかかわりを考えさせ、話すこと、聞くことの素地を育む。		○自然や地域、人々との関わりを通して、問題解決能力を育成する。特に本校の特色である環境教育や地域に残る文化・伝統を取り入れ、主体的に考えることや、協働・探求活動を学習に取り入れていく。	○発問を工夫したり、ICTを活用し、自分たちが進めているという気持ちをもたせるよう進めていく。その中で、校内研究の目指す学び合う集団、協働と探求を積み重ねていき、よりよい集団を目指している。
特別の教科 道徳	○教科書「新しい道徳」を活用し、町田市小中一貫規範教育カリキュラムの実施を通して、規範意識や公共心、自尊感情を高める指導及び生命尊重や人権尊重の精神の育成を図り、児童の道徳性を養う。 ○授業では、自分の考えを深める場面を設定し、他者に考えを伝え合う中で、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てていく。	○自分の特徴に気付いたり、やるべきことをしっかりと取り組んだりする気持ちを育てる。 ○周りの人に親切にしたり、感謝したりする心情を育てる。 ○生命を大切にし、みんなのために働く態度を育てる。	○正しいと判断したことは、自身をもって行う態度を育てる。 ○自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し節度ある態度を育てる。 ○誰に対しても分け隔てをせず、公正・公平な態度で接する心情を育てる。	○ワークシートに記入をもとに、自分の考えを発表することで、様々な考えがあることに気付いたり、自分の意見との違いを感じられるようにする。 ○学級全体でのアンケートなどを参考にし、身近なものとして考えられるよう工夫していく。
特別活動	○友達とのかかわり方や人間関係づくり等の指導の充実を図るために、学級活動や学校行事を通して、望ましい集団活動の展開を考え、集団や社会の一員としての自覚と責任感を深めさせる。 ○縦割り班による校外学習や集会活動を通年でを行い、異学年との交流を深め、主体的に判断し行動する力や豊かな心の育成を図る。	○学校生活を、よりよく充実したものにしようとする意欲や態度を育てる。 ○話し合い活動や学級での行事を通して、約束を守り、友だちと仲よく良好な関わりをもととする態度を育てる。	○自主的・自発的に活動し、学校生活を充実させようとする意欲や実践態度を育てる。 ○自分らしさを発揮しながら考えを出し合い、計画・実行しようとする意欲や実践的態度を育てる。	○高学年としての意識をもち行動できるよう子供たちの思いや意見を出させ、それを実現できるよう進めていく。 ○Chromebookの機能を活用しながら、学校全体・学年での問題点や解決策を考え、改善し、よりよい学校生活を送れるよう振り返りする時間を設定していく。 ○学級会の活動を通して、皆とよりよい結論を出せるよう指導を行う。
外国語活動	○チャンツ、歌、ゲームなどを繰り返し行い、英語について慣れ親しませる。		○チャンツや歌、ゲームなどを繰り返し行い、英語について楽しんで話すことができるようにする。 ○見本を聞いて、同じように発音することができるように繰り返し練習を行う。	